

令和2年度第1回川越市地域福祉専門分科会書面会議開催結果について

表記会議について、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、書面会議を開催させていただきました。委員の皆様から貴重なご意見・ご提案をいただき、ありがとうございました。開催結果と提出された意見への対応・担当課の回答をまとめましたので、送付いたします。

■開催概要

①開催方法

同分科会委員18名に資料及び回答票を郵送し、意見を聴取しました。

②回答票提出期限

令和2年6月9日（火）

※ 期限までに回答票の提出のあった15名を書面会議に出席したとみなし、報酬の対象としました。

③意見総数

・回答提出者数：15名

議 題	意見等有り	意見等無し
1-1. 「みんなで作る福祉のまち川越プラン」の進行管理について	5名	10名
1-2. 次期計画骨子案について	5名	10名
2. その他	4名	11名

④提出された意見の概要と担当課の回答

※ 一つの項目に二つ以上の意見を書かれた方がいるため、下記の意見数は意見をいただいた委員数より多い場合があります。

1-1. 「みんなで作る福祉のまち川越プラン」の進行管理について

No.	ご意見	福祉推進課の回答
1	成果指標が取組と関連性がないなど、評価指標として疑問が残る。アウトカムレベルでの指標設定が必要ではないか。	昨年度実施した中間評価の際にもお話ししたとおり、現行計画の成果指標については、施策全体を代表する指標となっていないなど、不十分なものであったと考えています。次期計画では、アウトカムレベルでの指標設定も検討し、抜本的な見直しを図っていきます。
2	「学生によるボランティア活動の促進」における「協力校の開拓方法の検討」と「認知症サポーター養成講座の充実」における「学校向け開催9校実施」の2つの取組等について、多くの取組や事業の進行管理や評価は難しいが、関連する取組同士の情報共有、連携を工夫することで、付加価値を生む可能性があると感じた。各種活動の情報共有について、SNSの活用や関係者が思いを共有しアイデアを出し合う場を設定するなどの工夫をすると良いのではないかと感じた。	学校等との連携など、複数の取組が関連する場合には、縦割りにならないよう柔軟な対応を心がけていますが、今後も関連部課の情報共有と連携を工夫して有機的な施策の展開を図るよう努めていきます。各種活動の情報共有については、SNSの活用や関係者間の連携についても検討していきます。
3	「小規模ふれあい活動の展開（給食サービス、一人暮らし高齢者集い事業等）」「子育てサロン、いき	小規模ふれあい活動や子育てサロン、いきいきサロン等については、現行計画の期間中に実施地区

	いきサロン等の展開」については、ほぼ全地区において実施されており、今後も引き続き期待している。	の増加を図ることができました。今後は全 22 地区における実施を実現するとともに、参加者の増加と内容の充実を図っていきます。
4	自治会加入率の低下により、市民課や市民センターの窓口でも自治会加入促進クリアファイルやチラシを転入者に配付しているようだが、自治会として、加入率増加に向けた対策により、成果を上げているところはあるのか。	各自治会は加入率を維持・向上させる努力をしていますが、その低下傾向を劇的に改善する方策は見当たらないのが現状です。しかし、いずれの自治会も手をこまぬいているわけではなく、戸別訪問などの地道な活動により成果を上げた団体があります。
5	民生委員として担当している地区内の集合住宅では 25 棟中 21 棟が自治会未加入であり、残る 4 棟も居住者に自治会加入の意識はない。自治会未加入のため活動に参加できない住民も少なくないと推測される。地域のコミュニティの活性化も難しく、孤立や災害時の取組についても心配している。	集合住宅等における自治会未加入の問題は、地域福祉の推進においても大きな課題となっていると考えます。次期計画においても、自治会に関する情報提供や啓発を図り、自治会加入の重要性やメリットを伝えていきます。
6	避難行動要支援者避難支援制度に関して、名簿を備えていない自治会への周知を図ることが目標とされているが、既に名簿を提供された自治会の中で、どの程度「個別計画」が策定されているのか。	「個別計画」の作成主体は自治会としていて、現在 7 自治会が個別計画を作成しています。今後、まずは要支援者名簿を備える自治会数の向上に力を入れ、既に名簿を備えている自治会に対しては、個別計画の作成を働きかけていきます。
7	障害者、高齢者、一般の方を対象に新しい催し物等を提供して交流を図りたいと思い、提案して小規模に実行してきたが、地域の関	新しい催し物等の活動を成功させるには、地域の理解が重要です。次期計画では、地域における福祉意識の浸潤を目指す意味で、

	<p>心度向上や情報交換、広報活動をしっかりやって地域を盛り上げていかなりと受け入れられるのが難しいと感じる。自然災害と新型コロナウイルスの影響で、今後も地域の催し物ができるかどうかかわからないが、それに対する迅速な対応をお願いしたい。</p>	<p>基本目標1として「地域福祉の雰囲気づくり」と設定し、広報活動や地域の関係者・関係団体との連携促進を図っていきます。</p> <p>新型コロナウイルス感染症への対応としては、自粛要請の段階的緩和に合わせて、十分な感染対策を施した上で、催し物等を実施できるように市・市社協としても協力していきます。</p>
8	<p>新型コロナウイルス感染症の影響が大きい中で、でき得る取組について実施されていることがわかった。多大な労力を要したかと思う。本当に素晴らしいと思った。地域住民の相談機能として、西口福祉総合相談窓口の存在に今後大きな期待を持っている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症への対応としては、自粛要請の段階的緩和に合わせて、十分な感染対策を施した上で、各種の取組を実施できるように市としても協力していきます。川越駅西口に開設した福祉総合相談窓口の運営に関しては、地域福祉サポートシステムの拠点として、部署横断的な体制で取り組んでいきます。</p>

1-2. 次期計画骨子案について

No.	ご意見	福祉推進課の回答
1	<p>上記（1-1 No.1のご意見）に基づき、インパクトまたはアウトカムレベルからアウトプットまで体系的なロジックモデルの整理が必要だと考える。コロナの影響、対応をどこまで計画に盛り込むべきか検討が必要ではないかと考える。</p>	<p>次期計画では、成果指標の抜本的な見直しを図り、施策全体の進捗状況を体系的に把握できる指標を設定したいと考えています。社会情勢に即応した計画として策定するために、新型コロナウイルス感染症の影響、対応についても、各施策の中で十分検討していきます。</p>
2	<p>新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式に向けた地域</p>	<p>新規感染者数が減少しても、当分の間、感染拡大を防ぐための新し</p>

	福祉のあり方、新たなハード、ソフトの導入、近々の対応（3密を避ける支援とは、行事等の制約）。	い生活様式を実践していく必要があります。それも踏まえて、新型コロナウイルス感染症の影響、対応についても、各施策の中で十分検討していきます。
3	基本目標1「地域福祉の雰囲気づくり」について、施策の方向性を読むとわかりやすいのだが、そもそも「地域福祉」という用語をどのような意味で用いるのか、計画のどこかで説明しておく必要があるのではないか。	「地域福祉」という用語は幅広い意味で用いられているので、次期計画では、どのような意味でこの用語を用いているのか、計画の中で明確に定義することを検討します。
4	新型コロナウイルス感染症の影響や対応について、骨子に入れるべきものなのか。プランには反映させるべきものなのか。そのあたりの危惧されることの取り扱いが少し気になった。	新型コロナウイルス感染症については、新規感染者数が減少しても、当分の間、感染拡大を防ぐための新しい生活様式を実践していく必要があります。社会情勢に即応した計画として策定するために、新型コロナウイルス感染症の影響、対応についても、各施策の中で検討していきたいと考えています。
5	骨子案に基本目標1「地域福祉の雰囲気づくり」とあるが、「地域福祉のきっかけづくり」としてはどうか。「雰囲気づくり」というと抽象的でイメージが湧きにくく、説明文にも「福祉教育や関連情報の提供、催し物等の開催を通じて『顔の見える関係』を作り・・・」とあるので「きっかけづくり」の方がしっくりすると思う。	現状、地域福祉の考え方が十分に地域住民に対して浸透しているとは言えず、強制的な捉え方をされかねません。そのようなイメージを払拭し、「強制なき共生」を地域住民全員で取り組むものという概念で「雰囲気づくり」という文言を使用しました。 「きっかけづくり」でも十分意図は伝わるとお思いますので、ご提案のとおり変更します。
6	骨子案の基本目標2「支え合いの	わかりやすく、親しみやすい計画

	<p>縁（円）づくり」というタイトルはとても良いと思う。市のホームページに「在宅医療・介護連携推進事業」の図が紹介されているが、「支え合いの縁（円）づくり」のイメージとして、関係機関や市民が円（ネットワーク）で結ばれていることを強調するため、そのようなイメージ図を掲載してはどうか。</p>	<p>となるように、計画の中ではご意見にあるような図などの視覚的表現の活用も検討していきたいと考えています。</p>
7	<p>骨子案の基本目標3「不安の少ない暮らしづくり」の項目に関して、昨年の台風19号では川越市も被災当事者となり、新型コロナウイルス感染症により、未だ社会全体が不安の中にある。昨年の教訓を活かして、避難所の収容人数の見直しや、避難所で感染防止のための3密を避ける対策などを盛り込んでどうか。</p>	<p>避難所における新型コロナウイルス感染症への対応については、関係部課と連携して各施策の中で検討していきたいと考えています。</p>

2. その他

No.	ご意見	福祉推進課の回答
1	<p>コロナの関係で自粛。高齢者の交流の場が全て中止となり、外へ出かける所がないと、多くの方からの情報を得て、皆様の心と体の状態を心配している。一日も早く終息して、誰もが安心して外出できる日が来ることを願っている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による外出・交流機会の減少が高齢者の生活に悪影響を及ぼしていることについては、全国的に問題となっており、市でも憂慮しているところです。自粛要請の段階的緩和に合わせて、十分な感染対策を施した上で、高齢者の社会参加や交流の場が早期に再開できるよう尽力していきます。</p>
2	<p>川越市の再犯防止推進計画の策</p>	<p>次期計画は、再犯防止推進計画を</p>

	定の予定はあるのか。	<p>包含するものとして策定し、再犯防止推進施策についても計画の内容に盛り込んで、地域福祉施策と一体的に推進していく予定です。</p> <p>現在、関係機関との意見交換を進め、施策等の設定を進めています。</p>
3	<p>新型コロナウイルス感染症のため、自治会の行事は実施できない。地区別福祉プランの取りまとめは困難だと思う。令和3年度を始期とする次期計画だが、地区によってはプランが変化すると思う。</p>	<p>自治会の行事等については、自粛要請の段階的緩和に合わせて、十分な感染対策を施した上で、実施できるように市としても協力していきます。</p> <p>地区別福祉プランについては、現行計画の整理を基本に見直しを図っていきます。各地区に状況を確認し、話し合う場を設定していきます。</p>
4	<p>地域社会と少しだけでも何らかの関わりを持ちたい人や、短い時間でボランティア活動をしたい人などのニーズを発掘し、活動へつなげられる動きがもう少し大きくなれば良いと思う。「何か少しでもボランティアのような活動に参加できることがないか」と思っても、実際にはなかなかできることがなかったりするという意見を周りから聞くことが多い。</p>	<p>地域福祉活動に参加する人材の発掘・育成は、地域福祉の推進に向けた大きな課題だと考えています。少しでも関心のある人ができるだけ活動に参加しやすいように、活動に関する情報や機会の提供について工夫していきます。</p>